

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、_ は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

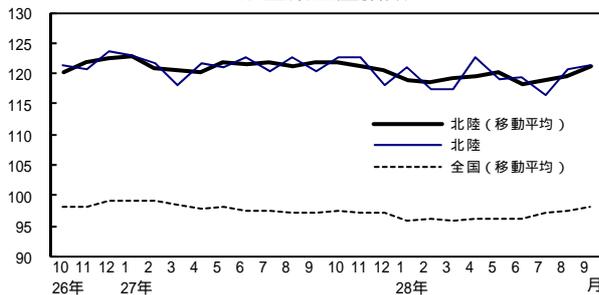
	前回 (平成 28 年 8 月)	今回 (平成 28 年 11 月)	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、電子部品・デバイスは減少しているものの、8～9月では新型スマートフォン用電子部品などが増加している。化学は、後発医薬品が堅調のため高水準でおおむね横ばい。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等の輸出が増加していることから増加した。繊維は、化学繊維が増加した。金属製品は、建設用金属製品が減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

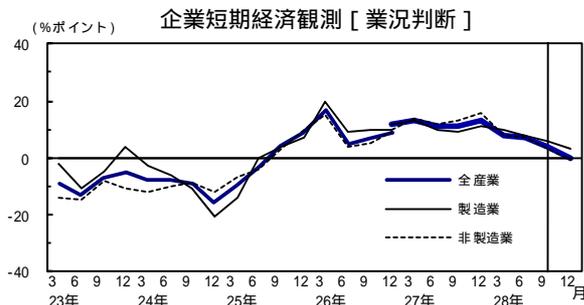
	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	20.8	2.8	3.6	4.3	0.9	6.1
化学	13.5	10.4	0.1	2.8	1.6	4.1
はん用・生産・業務用機械	12.7	7.1	7.4	0.3	12.1	7.3
繊維	8.4	4.3	2.0	0.3	7.0	3.4
金属製品	6.0	0.8	0.3	7.8	7.6	3.2
鉱工業	100.0	1.5	0.7	2.6	3.9	0.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

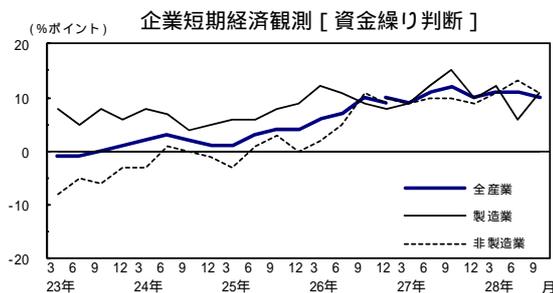
(7) 北陸

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

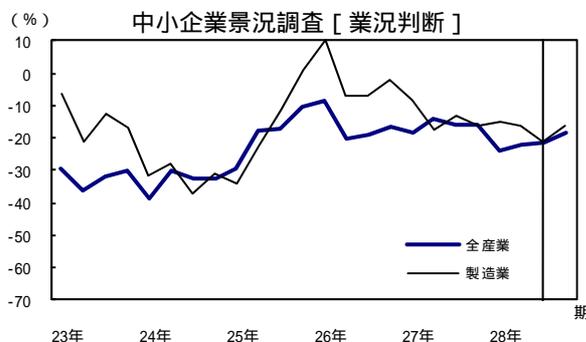
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

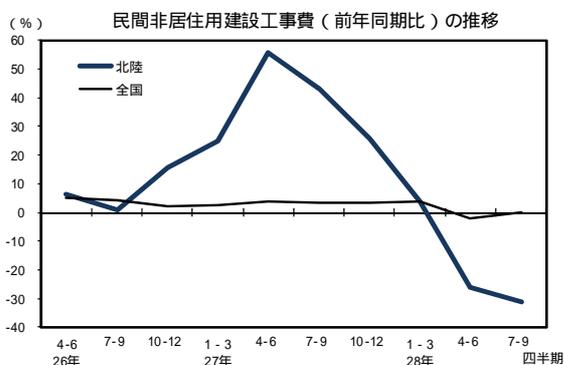


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「国内、輸出ともに衣料関連については動きが悪く、受注確保に苦労している。一方、資材用途の車両関係については安定感があり、受注も増えつつある(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度見通
全産業	18.0	14.6 (0.4)
製造業	43.6	5.7 (3.3)
非製造業	7.1	45.3 (2.5)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.9%増、8月は同0.6%減、9月は同1.1%増となった。

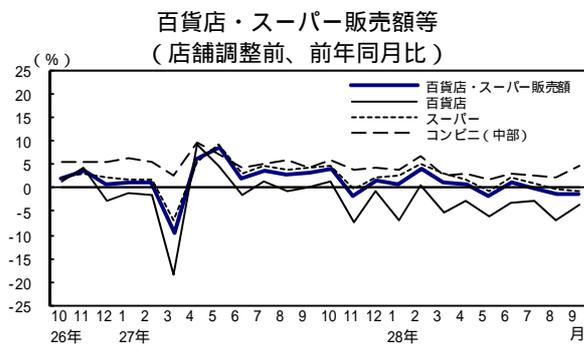
百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7月は、気温が高めに推移したことから夏物商材には動きがみられたものの、衣料品や高額品などが振るわず、前年を下回った。8月は、月後半の気温が高めに推移したことにより衣料品を中心に秋物商材が振るわず、昨年のプレミアム付商品券の反動減などもあって、前年を下回った。9月は、飲食料品は堅調に推移したものの、気温が高かったことから秋物衣料が振るわず、前年のプレミアム付商品券の反動減などもあって、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「8～9月は、台風が数多く日本列島に接近して海が荒れたため、魚価は高止まりしていた。

10月に入って、魚価が安定してきたため、粗利はやや落ち着いてきている (一般小売店 [鮮魚])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



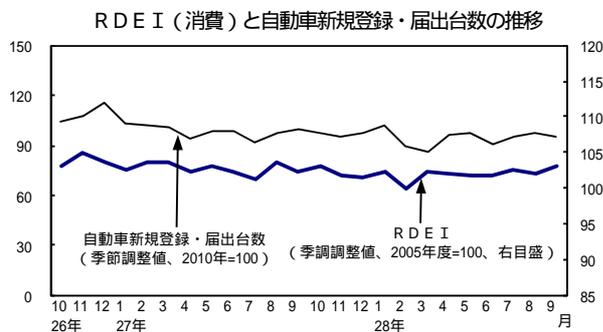
	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.8	0.9	0.6	1.1
百貨店・スーパー(*2)	0.9	0.1	1.4	1.1
百貨店(*2)	4.3	2.8	6.8	3.7
スーパー(*2)	0.0	0.8	0.3	0.5
コンビニ(*2)	3.2	2.7	2.3	4.6
乗用車(*3)	0.8	1.3	4.6	3.9
(季節調整値)(*3)	1.1	4.9	2.6	2.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

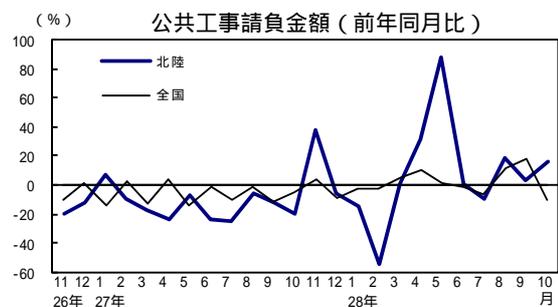
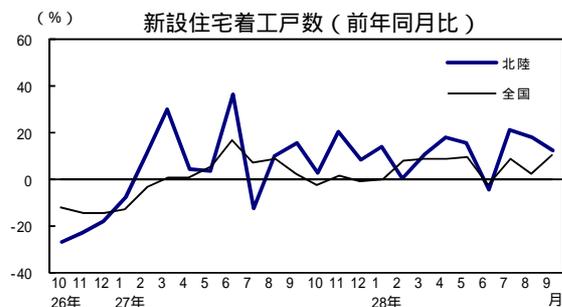
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

持家、貸家、分譲いずれも前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は、28年度累計でみると前年度を上回っている。



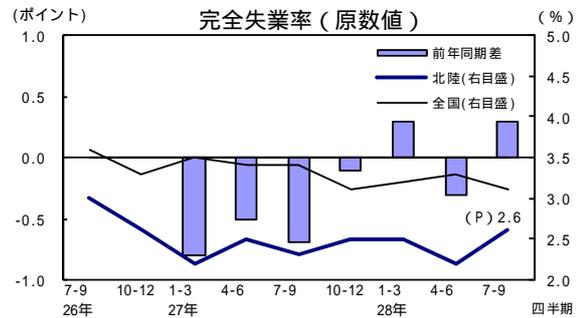
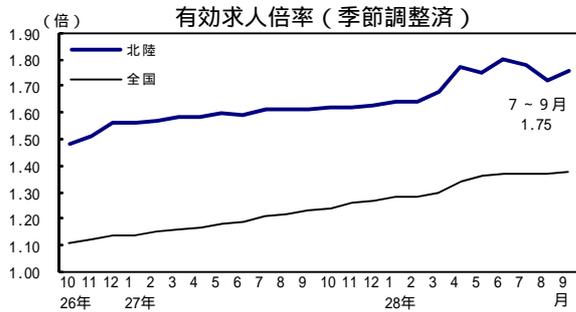
(7) 北陸

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



(備考) 1. 北陸は内閣府にて算出。
2. 7-9月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[雇用関連(現状)]

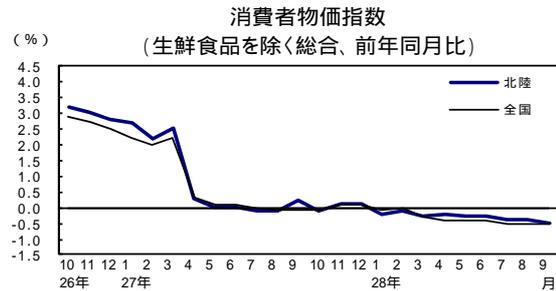
「10月の求人広告売上が、前年同月比で2割増えている(新聞社[求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	54	57	63	46	11
(前年比)	5.9	14.0	6.8	24.3	31.3
負債総額	94	232	35	71	5
(前年比)	3.6	133.5	95.6	23.0	76.4



(備考) 北陸は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・北陸新幹線開業2年目に入り、春からだんだんと落ち着きをみせている。この秋は、前年の大型キャンペーンとの比較で全体として悪くなっている。団体客やインバウンド客、個人客も動きが鈍い(テーマパーク)。

<先行き>

・年末の商戦期を迎えて、客からの引き合いが増えることを見込んでいる。また、今月からスタートした新サービスによって、更にそれが加速されると考える(通信会社)。

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

